

事故を防止し、緊急事態への対応やセキュリティ強化に関する事項を定め、社員の安全の確保と安定した操業の維持を目的として保安防災活動を行なっています。こうした活動により事故ゼロをめざします。

ESG キーワード

事業継続計画 (BCP)

大規模災害に備えた緊急事態対応訓練

保安カグランドデザイン (保安防災中長期目標)

高圧ガスの保安

保安防災教育

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

化学プラントでの事故や、自然災害が多く発生している昨今、大規模化学プラントを有する企業に対する安全操業への要求はますます高まっています。

そのような状況の中、現場保安力の向上をめざすとともに、防災対策の強化を日々図っていきます。

花王が提供する価値

大規模化学プラントを有する企業として、事業場の地域住民や従業員へ安全な操業で事故のない安心して暮らせる地域社会を提供します。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

工場周辺地域に影響する大きな事故の発生や、自然災害による安定操業の停止、それらによる社会からの信頼損失をリスクととらえています。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

地域や従業員の安全の確保に向け、徹底して保安防災の取り組みを行なうことは、社会からの信頼の獲得とブランドイメージの向上につながります。

貢献するSDGs



方針

花王は「保安防災」の活動方針を、花王レスポンシブル・ケア (RC) 方針に「火災、爆発および化学物質漏えいを防止し、安全で安定な操業を維持するとともに、自然災害やセキュリティ強化に配慮して、設備対応と定期的訓練を行ない、緊急時に備える」と明確に定めています。この方針に沿って事故の防止に努めています。



→花王レスポンシブル・ケア方針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/responsible-care-policy.pdf

教育と浸透

業務に関する事故の発生や拡大を防ぐため、過去事例・最新技術や知識など保安防災に関する教育や対応訓練の計画を立て、技術の伝承や保安力の強化を行なうとともに、自然災害や火災などを想定した訓練を計画・実施することで、社員の防災意識向上に努めています。

ステークホルダーとの協働／ エンゲージメント

事業場でともに働く協力会社と協働で安全・保安や防災に関する行事を行なうことで、さらなる防災意識の向上を図り、より安全で安心な企業となるよう努めています。

また、工場周辺地域の皆さまと情報交換会などを定期的を実施することで、地域とのコミュニケーションを深めています。

体制

日常の保安防災活動は、RC推進体制に基づいて行なっています。事故・災害が発生した場合には、グローバルな緊急事態連絡網を通じて発生を把握するしくみを構築しています。さらに、事故・災害が事業活動に重大な支障を及ぼすと予想される時には、社長を本部長とする緊急事態対策組織を即時に立ち上げ、人命を第一とした初動対応をはじめ、事業継続計画(BCP)※に沿った対応などをグループ一丸となって行ないます。

※ 事業継続計画(BCP)

さまざまな事象とその要因により事業活動の中断や停止が引き起こされる場合を想定し、その状況に応じてどの業務・機能をどのような方法で維持・継続させるかを事前に決めておき、会社としての重要業務を継続させるための計画。



→リスクと危機の管理

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2021-all.pdf#page=19

中長期目標と実績

中長期目標

場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えいゼロを目標に活動しています。

中長期目標の達成により期待できること

事業インパクト

すべての事業場が安全に操業することで、事業活動が正常に行なわれ、不要な経費発生が抑えられ総合的なコストの低減、収益拡大につながります。

社会的インパクト

すべての事業場が安全に操業することで、事業活動が正常に行なわれ、安定した商品供給ができます。また、製品価格の安定化に貢献できます。

2020年の実績

実績

2020年は「安全で安定な操業の維持」のため、保安上の事故撲滅に向けて重合・発熱反応設備の熱的リスク評価、化学設備のセーフティアセスメント、自然災害対策を実施しました。また、防災活動として防災訓練の充実とセキュリティ強化を目標に掲げ、各部門においてさらに詳細な実行内容と計画を策定し活動しました。なお、安全防災レベルの向上をめざし毎年海外の工場で実施している防災監査は、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

さらに、花王が2030年にめざすべき保安の姿として「保安力グランドデザイン」を策定し、現場レベルでの保安力の向上を図るための安全文化と安全基盤に関する13のアクションプランを関連部門や工場と共有しました。

2020年は小火災の発生がありましたが、爆発事故、漏えい事故、物流漏えい※事故はありませんでした。2021年も引き続き場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えい事故ゼロを目標に活動します。

※ 物流漏えい
製品等の輸送中における漏えい事故

目標と実績

項目	対象	指標	2019年	2020年		2021年
			実績	目標	実績	目標
事故	花王グループ	火災・爆発・漏えいなど(件)	7	ゼロ	2	ゼロ
		物流漏えい(件)	0	ゼロ	0	ゼロ

2020年の事故の概要

事故種類	小火災:2件
事故概要	・タンク老朽部より漏えいした原料(脂肪酸)が保温材に浸漬し、自然発火 ・設備再始動の際、滞留物でファンが詰まり、発熱・発火
今後の対策	設備更新の促進、監視装置の強化を行ないます。

実績に対する考察

2020年は2019年より保安事故件数は減少しましたが、目標には未達となりました。今後も現場保安力をさらに向上するとともに、安全文化と安全基盤の向上に努めます。

具体的な取り組み

大規模災害に備えた緊急事態対応訓練

花王では、各事業場単位での消防訓練・避難訓練以外に、大規模災害に備えてグループ全体で訓練を実施しています。

安否確認訓練

日本花王グループは自然災害発生に備えウェブ安否確認システムを導入し、全社員を対象にした入力訓練を毎年定期的に3月と9月の2回実施しています。2020年は、3月の訓練は1日目(24時間)を本人の入力訓練、次の日から確認担当者による入力のない社員の追跡確認の訓練を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により急遽中止しました。9月の訓練は実際の地震を想定、避難所への移動なども想定し、1日目と2日目に居場所を変更して入力する訓練を実施しました。今後も実際の災害発生を想定した訓練を継続していきます。

2020年の安否確認システムの自然災害での使用は、以下の通りです。これら自然災害に対し安否確認システムを使用し安否確認を行なった結果、重篤な人的被害はありませんでした。

また、新型コロナウイルス感染症に対しても、この安否確認システムを活用し、社員の健康状況を毎週把握しています。

2020年の安否確認システムの使用状況

年月	災害名	結果
2020年7月	令和2年7月豪雨	発信当日に100%安否を確認
2020年9月	台風10号	発信当日に100%安否を確認

地震を想定した全社通報連絡訓練

花王は、首都圏での地震により本社が被災することを想定し、東日本・西日本それぞれに対策組織を整えています。2020年は、5月には北海道・東北の地震を想定し、現地と東日本の対策組織の訓練、11月には首都直下地震を想定し、関東エリアの現地と西日本の対策組織の訓練を実施しました。

訓練想定は平日・昼間とし、主要対策組織内部のIP無線による状況確認を行ない、社内災害用電子掲示板および情報管理ポータルシステムを用いて、現地の被害状況を緊急事態対策本部まで迅速に伝達し、対策本部は被害情報に基づき必要な対応訓練を行ないました。さらに、首都圏が被災想定11月の訓練では、対策本部長である社長も参加し、緊急事態対策本部が安全に活動できる拠点への移動訓練も実施しました。なお、今年の訓練は新型コロナウイルス感染症の影響も考慮し、オンライン会議ツールを用いて、対

策本部各メンバーが在宅にて対応する訓練を初めて実施しました。

これまでの訓練で得た反省点をもとに、訓練内容の見直しを随時行なっています。

工場見学者を想定した避難訓練

日本で工場見学を実施している9工場では、見学時の地震発生を想定して防災頭巾を準備したほか、見学者を安全な場所へ迅速に誘導できるよう、社員を見学者に見たて、避難訓練を実施しています。今後も、見学時のさまざまなシーンを想定した訓練を年間の訓練計画に組み込んでいきます。



社員を見学者に見たて避難訓練を実施

保安・防災の強化

SCM部門では、化学設備のリスクマネジメントの強化として潜在危険の対応、地震対策、また、自然災害への対応を引き続き推進しています。

2020年は、化学設備の異常反応等を起因として発生する火災爆発事故防止を評価する熱的リスク評価手法の確立を行なったほか、自然発火対策として、タンク内残存物の自然発火による火災防止手法の確立も行ない、それらを元にして、国内外の重合・発熱反応設備の熱的リスク評価手法の周知を行ない、操業での安全確保に努めました。

地震対策では、地震力対策として設備架台の診断と補強を継続的に進めると共に、和歌山、豊橋における地震による液状化に伴う構築物の損傷防止のための検討を継続に行ない、自然災害での被害の最小化に努めています。

自然災害への対応では、水害リスクへの対策の基本的な考え方をまとめると共に、近年の風害を踏まえ、屋根や外壁といった非構造部材への対応の検討を行ない、被害の最小化に向けた取り組みに努めています。



ビリピナス花王(フィリピン)での消火・応急処置訓練



上海花王化学(中国)での消火・応急処置訓練

「保安力グランドデザイン」を策定

花王が2030年にめざすべき保安の姿として「保安力グランドデザイン」を作成し、トップレベルの現場保安力へと向上させるためのアクションプランを策定しました。

このグランドデザインは、人や組織の安全風土に基づく「安全文化」をレベルアップする6つのアクションと、ソフトやハードなどを含む運転や保全要素などに基づく「安全基盤」をレベルアップする7つのアクションの計13のアクションプランからなっており、それぞれのアクションプランには下位のターゲットが設定されています。

工場や関係部門ではそれぞれのアクションプランをスケジュールに落とし込み進捗を確認するとともに確実に実施していきます。

高圧ガスの保安

高圧ガス保安検査・監査・査察

和歌山工場では、高圧ガス保安法の認定保安検査実施者※の認定を受けており、2020年は9月に保安管理部門の保安監査、11月に保安管理の長である社長のもと保安査察を実施し、保安活動について問題がないことを確認しました。

他事業場の高圧ガス設備についても、県など外部の検査機関による保安検査を実施しています。これらの設備についても保安監査・保安査察は自社で実施し、安全操業に努めています。



高圧ガス保安査察(和歌山工場)

※ 認定保安検査実施者

高圧ガス保安法に基づき、特定施設が技術上の基準に適合しているか否かについて、運転を停止することなく自ら保安検査を行なうことができる者または運転を停止して自ら保安検査を行なうことができる者として、経済産業大臣が認定した者

高圧ガス認定施設更新審査(和歌山工場)

和歌山工場は、自主保安力の向上をめざし、高圧ガス保安法の認定保安検査設備を有しています。2020年は5年ごとの経済産業省による認定保安検査実施者の更新審査の年となり、8月には高圧ガス保安協会による現地調査を受診、11月には経済産業省によるヒアリングを受診し、大臣認定を継続維持しました。

今後、さらに高度な特定認定(スーパー認定)事業者※の認定要件レベルを有する保安力をめざし、活動を推進していきます。

※ 特定認定(スーパー認定)事業者

IoT、ビッグデータの活用、高度なリスクアセスメント、第三者による保安力の評価の活用等の高度な保安の取り組みを行なっている認定事業者を経済産業省が認定するもの

保安防災教育プログラム

花王は、保安防災教育のためのさまざまなプログラムを構築しています。たとえばSCM部門では、「モノづくり技術・技能伝承センター」で、生産現場を担う若い技術者が、さまざまなトラブルや危険な状況の疑似体験を通して必要な知識・技能を学び、技術の伝承に努めています。

また、国内外の次世代リーダーの育成に向け、和歌山工場内で8カ月にわたり、生産技術や“よきモノづくり”の精神を学ぶ「グローバルテクノスクール」を開校し、保安防災を含めたさまざまな研修を実施しています。なお2020年は新型コロナウイルス感染症の影響でグローバルテクノスクールは中止しました。

「防災とボランティアの日」に合わせ防災メッセージを日本の全社員向けに毎年発信しており、社員の防災意識の向上を図るとともに、過去の事故発生日を「安全の日」と定め過去の教訓を風化させないよう努めています。さらに、防災マニュアルを日本の全社員に毎年配布しています。



花王防災マニュアル

2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で在宅勤務する社員が増加したことを考慮し、在宅でも実施可能なeラーニングを充実させ、日本の関係会社全社員に対し実施しました。

2020年の防災教育としては、台風や豪雨が多くなる前の6月に「台風・豪雨 基礎編」として台風や豪雨の際に必要な防災の基礎知識、過去の被害事例や避難のタイミングを学習し、各自の被害リスクを考えさせるプログラムを実施しました。7月には第2弾として「台風・豪雨ハザードマップ編」を実施し、ハザードマップの調べ方や見方、近くの避難所の調べ方などを学習するとともに、自宅の想定浸水深を実際にハザードマップで調べるプログラムとしました。

2020年の保安教育としては、化学製品を扱う会社の社員の基本知識であり会社にとって重要法規の一つである消防法の危険物について学ぶこととし、8月に「基礎編」を日本の関係会社全社員に対し実施、11月には部門別に「実践編」を実施しました。

今後も積極的にeラーニングを活用し保安防災に関する教育を実施していきます。